

展望台

以前から気になつていた建物を、じっくり見学する機会があった。木造だが風格があり、由緒を感じさせる。国道を走るとちらりと一部が見え、正体を知りたいと思つていたところだった。

館山市北条にある旧県立安房南高校の第一校舎。県指定の有形文化財だ。先月下旬に行われた一般公開では、朝方の強い雨にもかかわらず次々と見学者が訪れ、駐車場もぎっしりだった。

開校は明治時代の1909年。当時は安房郡立の高等女学校で、大正時代の1921年に県立に切り替わる。その2年後の関東大震

災で校舎は倒壊し、現在残つてい
る校舎が完成するのは昭和に入つ
た1930年になってからだ。2
008年には安房高校に統合さ
れ、使われなくなったこの校舎は
ほぼ放置された状態だった。

正面玄関の前に立つと、目に入

高に遅れること3年の1933年
だ。南高が当時最新の流行を取り
込んだ建築であることが分かる。

教室の内部を見ると天井から下
部に突き出しているように見える
梁が異常に太い。関東大震災クラ
スに耐えるような耐震構造が採用

誇つていい文化財

るのは2階上部と玄関上にある幾
何学文様の装飾だ。1930年代
といえばフランス発のアーデルコ
と呼ばれるこのような様式が世界
中に広がった時期。JR目黒駅近
くの旧朝香宮邸（現東京都庭園美
術館）がその代表例で、完成は南

された、とい
うガイドの
説明を聞いて
納得する。

階段の幅の広さ、傾斜の緩やかさ、
手すりの頑丈さなどにもいざとい
う時への備えが感じられる。

廊下には明治以来の通学服など
を人形にさせて展示。和服にはか
ま姿の初期のものから戦時体制下
のものへ姿、戦後の制服など、近

代日本の歩みがそのまま感じ取れ
るものだった。古い写真には、開
校当時の運動会でダンスを披露す
るはかま姿の乙女たちの様子も
あった。

数年前までほこりだらけだった
という廊下は、ボランティアたち
が昔ながらのぬか雑巾で磨き上げ
てぴかぴかの状態。吹奏楽の準備
などで行き来する現役の安房高生
たちを見ていると、今も使われて
いる校舎と勘違いするほど整備さ
れて見えた。

ガイドによると、高等女学校の
木造校舎が残っているのは、全国
でも館山のほかには函館（北海道）
しかないという。大事に残したい
文化財だ。